



あらい犬猫病院長

(富山市婦中町下替田)

荒井 靖子

元日の能登半島地震では県内でも被災された方がたくさんいらっしゃいました。心よりお見舞い申し上げます。大地震を経験したことで災害対策が身近なものに変わったと思います。この経験を生かして、家族の一員であるペットの災害対策もしっかり考え準備しなければいけませんね。

災害時にはペットの「同行避難」が推奨されています。ペットとともに安全な場所（避難所）まで避難行動することで、避難所で飼い主とペットが同室で避難することではありません。「同伴避難」は

ペットの災害対策



ペットの同行避難所を設営するためのスターターキット

避難所で飼い主がペットを飼養管理することですが、これも同室で飼養管理することではなく、ペットの飼養環境は避難所によって異なります。そして災害直後の公助（公的機関による救助、支援）を期待することは難しいため、まずは自助（自分自身、家族、ペット

同行避難の準備しよう

の身の安全を守る）、そして共助（地域やコミュニティで協力、助け合う）が基本になります。

ことしの県総合防災訓練では動物同行避難訓練も行われ、避難者が協力し合ってスターターキットの指示書に従ってペットの飼育スペース設置などの訓練を行いました。

平時からの準備がとても大切です。愛犬・愛猫にはマイクロチップを装着しましょう。驚いて逃げたまま迷子になったりして、マイクロチップが装着されていれば家族の元に戻ってくることもできます。避妊・去勢手術をしておくことも大事ですね。移動用キャリーやケージに入ることに慣れさせましょう。普段から入り慣

れていればペットも安心することができます。

避難所では感染症対策も大事です。狂犬病ワクチン接種、混合ワクチン接種、ノミ・マダニなどの予防も日頃から定期的に行いましょう。避難する際に持って行くものも事前に準備しておきましょう。フードや水、ペットシートなどだけでなく、いつも飲んでい

る薬や常備薬も必要です。猫の場合にはトイレの準備も必要ですね。公助の支援が届くまで何がどのくらい必要か考えて準備しておきましょう。また避難所や避難ルートなどについてご家族と話し合っておくことも大切ですね。

毎月第1土曜掲載